

常楽寺・北向観音の概要 歴史

天長二（八二五）年 北向観世音出現。慈覚大師円仁により常楽寺と北向観音が開創される。

十一世紀後半 山梨県大善寺の三枝氏系図に、常楽寺の存在が記される。

建長四（一二五二）年 塩田陸奥守北条国時により北向観音堂が修理されると伝わる。

弘長二（一二六二）年 北向観音出現霊地に、石造多宝塔が建てられる。

正応五（一二九二）年 神奈川県金沢文庫に、常楽寺で書写された「十不二門文心解」がのこる。

元和三（一六一七）年 上田藩主真田信之が常楽寺に一貫二百文の地を寄進する。

元禄七（一六九四）年 常楽寺が北向観音の別当となる。

享保四（一七一九）年 北向観音堂再建。

享保一七（一七三二）年 常楽寺本尊が造像される。同時期に常楽寺本堂建立される。

昭和三八（一九六二）年 北向観音堂大修理。常楽寺五十六世孝淳晋山・北向観音御開帳。

平成十五（二〇〇三）年 常楽寺本堂復原修理。

平成十九（二〇〇七）年 常楽寺五十六世孝淳が天台宗第二五六世天台座主に上任する。



北向山厄除千手観世音火坑出現之図
(常楽寺美術館蔵)

令和七（二〇二五）年、北向観音と常楽寺は、開創千二百年を迎えます。

平安時代初期の天長二（八二五）年、常楽寺の裏山に火口が出現しました。

比叡山延暦寺の慈覚大師円仁が朝廷の命によって修法すると、火口から紫雲がたなびき、火焰とともに金色の千手観音菩薩が飛翔し、北向山の桂の木の梢に留まります。

慈覚大師は、千手観音菩薩の出現霊地に常楽寺を、北向山の桂の地に北向観音堂を開創。以来、常楽寺と北向観音は、天台教学の拠点として、また、現世救済の祈願寺として繁栄してきました。



本坊常楽寺本堂



北向観音堂

お問い合わせ

本坊 常楽寺



長野県上田市別所温泉2347
Tel 0268-37-1234

- ◆ 駐車場は観光駐車場(有料)をご利用ください。
- ◆ 混雑が予想されますので、できる限り公共交通機関でのご来寺をお願いいたします。
- ◆ 10月25日(土)は一部交通規制があります。



パワースポット

国指定重要文化財 石造多宝塔
(北向観音出現霊地)



愛染かつら